

「平成23年度東久留米市事務事業見直しのための仕分け」 委員意見・提言

番号	B-1	担当課	障害福祉課
事務事業名	わかくさ児童デイサービス事業		

判 定 区 分							(仕分け市民委員数はA班4名、B班3名)						
1	不要	2	民間	3	国	4	東京都	5	他市町村との広域連携	6	東久留米市(改善有)	7	東久留米市(現行通り)
0名		0名		0名		0名		0名		1名		2名	

仕 分 け 委 員 意 見 ・ 提 言

委員・・・7東久留米市（現行通り）②事業規模を拡大すべき

- より保護者のニーズに corres 応するようにしていくべき。
- 財政的な課題もあるが、箱モノ行政等を削減して、福祉事業に手厚いサービスを行うべきである。
- 他市より療育時間が長い等、優れているのであれば、その”強み”を延ばして「福祉の充実した市」と認知される様事業を拡大していただきたい。

委員・・・6東久留米市（改善有）⑦その他

- 30年近くにわたって蓄積してきたノウハウを持った「わかくさ学園」と、専門的なノウハウを持つ民間の「社会福祉法人」系の団体と連携した新たな「公設・公民」の学園を創設することはできないか。
- 現状のサービス内容について、専門の第三者評価機関による評価が必要ではないか。

委員・・・7東久留米市（現行通り）②事業規模を拡大すべき

- 先進性、専門性は問題はない。もっと充実してほしい。
- わかくさ学園の児童は卒園後、特別支援学級に進んでいるが、この連携を密接に行ってはどうか。
- 公設・公営としてスタートした時の精神を忘れずに。
- 指導職員の専門性が高いゆえ、定年まで同じ職場で働くことになるだろうが、その役割は市内の他の保育園、幼稚園との連携や学校での子らの指導を高める意味で大変高い。
- 東久留米市が障害児・者の福祉に厚いという評価を大切にすべき。

担 当 課 の 考 え 方

- ・今後とも保護者の要望に対しては積極的に受け止め、園児の療育上または家族への支援として必要と考えられることは、前向きに取り組んでいきたい。
- ・現在、東京都市立心身障害児・者施設協議会（三多摩地域の乳幼児及び成人の障害者施設で構成）に参加し、情報交換や合同研修等をおこなっています。わかくさ学園が所属する幼児部会は、障害乳幼児の通園施設で構成され、運営形態は直営、社会福祉法人等への委託が半々です。公営、民営施設が一緒になり、幅広く情報交換等を行っており、有益な情報等は園運営や療育内容の充実のため積極的に活かしています。
- ・平成24年度は、相談事業を強化するため、職員2名体制で行う予定となっており、市内の保育園、幼稚園への訪問相談の拡充、さらには、学齢児の相談の拡大を図ることになっています。この相談事業の拡大、充実により、可能であれば、近い将来、児童発達支援センターとして、関係諸機関との連携をさらに深め、児童に対する包括的な発達支援を行っていききたい。
- ・第三者評価機関による評価についても、今後検討していきたい。